

1. とうもろこしのシカゴ定期は、9月には350セント／ブッシェル前後で推移していたが、輸出需要が好調であること、10月11日発表の米国農務省需給見通しで単収が下方修正されたことなどから、12月には380セント／ブッシェル台まで上昇した。その後、原油相場下落によりエタノール向け需要の減少が見込まれる一方で、天候による南米産の作柄悪化懸念を受けて底堅く推移しており、現在は370セント／ブッシェル台で推移している。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、9月には350ドル／トン台で推移していたが、11月8日発表の米国農務省需給見通しで、米中間の貿易摩擦により米国からの大豆輸出が下方修正され、期末在庫が大幅に増加したことなどから340ドル／トン前後まで下落した。その後、米中貿易協議の先行きに対する不透明感は継続しているものの、天候による南米産の作柄悪化懸念を受けて、現在は330ドル／トン台で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、8月には48ドル／トン前後で推移していたが、中国向けの石炭輸送需要が増加したことや、原油相場が堅調であることから、10月には53ドル／トン台まで上昇した。その後、原油相場が下落に転じ、南米産穀物の輸送需要が一段落して以降、米中貿易摩擦の長期化により中国向け輸送需要が低調となっていることなどから、現在は30ドル／トン台後半となっている。
4. 外国為替は、9月上旬には111円前後であったが、その後、米国の良好な経済指標により利上げ観測が高まったことから円安傾向となり、113円前後で推移した。その後、米国の株価急落により108円前後まで円高がすすんだが、依然として経済指標が好調なことなどから、現在は110円台となっている。

